

生徒の学習意欲を引き出す「学習評価システム」の構築と授業改善

～自らの学習状況を捉え、深化・改善のために努力しようとする生徒の育成～

酒田市立飛鳥学校

〒998-6711
山形県酒田市飛鳥字堂之後30番地

<http://www.sakata.ed.jp/asuka/wed/index.html>

1. はじめに

本校は、酒田市の東部に位置し、東は出羽丘陵を背に、南は最上川に隣接している。日本海に近く、北は霊峰鳥海山を眺め、南に月山を遠望し、古来平田郷と呼ばれた農村地帯である。地区のほぼ中心に飛鳥中は位置しており、今年度の生徒数は169名で、長年「自主・自律」を豊かな環境の育み、誇れる校風としてきた。

生徒の実態は、次のような傾向が見られた。指名されると何とか答えようと頑張り、与えられた課題に対しては概ね真剣に取り組む一方、「意欲と活力」という面では元気不足、積極的に参加し、より活発な授業づくりの姿勢が欲しいというのが課題だった。そこで、そんな生徒を積極的に評価し、成績に反映できるシステムを開発したいと考えた。

一方、平成24年度から完全実施が始まった新指導要領でも、各学校において、生徒に生きる力を目指し創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考、判断力、表現力やその他の能力を育むとともに主体的に学習に取り組む態度、個性を生かす教育の充実に努めることが大切であるとされている。その際、さらに、言語活動の充実が新たに設けられている。そこで、本校では生徒の実態や改訂の理念を生かしながら、本研究テーマを設定し取り組んできた。

2. 研究の目的

本校の研究は学習意欲を高めていこうとする「学習評価の改善」にかかわる研究であり、また、学校体制で「自律的に学ぶ力」を育成しようとする研究である。

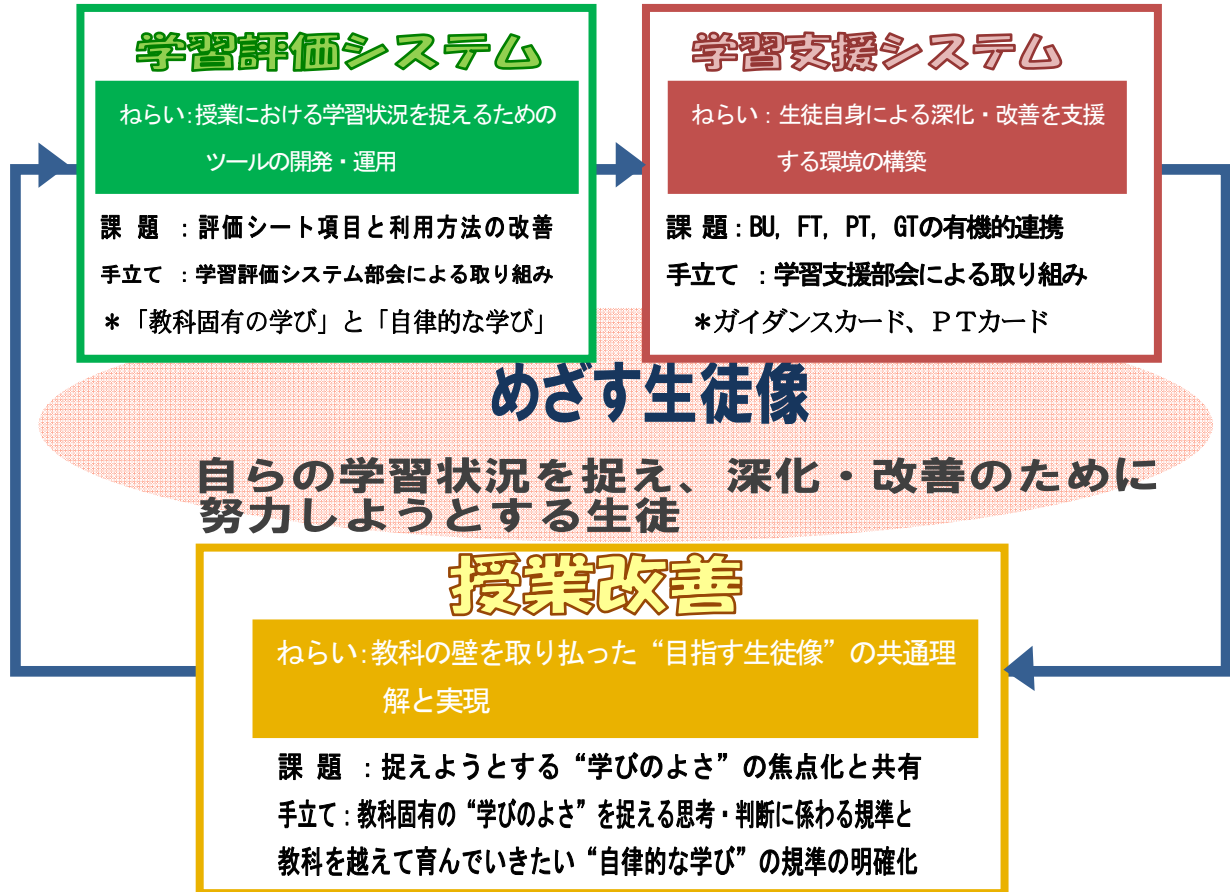
研究の仮説は次の2つである。

- (1) 授業における“学習到達度”と“学びのよさ”を捉えて伝え、生徒自身の学び方の深化や考え方の改善「学習評価システム」で支え育てることで、生徒の自律的に学ぶ力が育つであろう。
- (2) 完全単元評価体制のもと、単元のねらいを明確にした学習マップの活用を図り、捉えようとする、“学びのよさ”の評価規準をもって授業に臨むことで、一人一人の学びの状況に応じた授業への改善が図られるであろう。

3. 研究の方法

平成24年度からは研究のフレームワーク毎に整理し研究を進めてきた。

研究のフレームワーク



4. 研究の内容

(1) 学習評価システム (課題: 授業における学習状況を捉えるツールの開発と運用)

① 単元評価の実施の手順

- ア 単元指導計画の作成、生徒用「学習マップ」(学習案内)の作成・事前配付
- イ 毎時間の学習到達度の自己評価(教師との学習コミュニケーション)
- ウ 単元終了後に3段階での単元評定

② 評価シート(PC)での単元評価の開示、ガイダンス

③ 学習マップの活用

- ア 単元のねらいや見通しを持たせるオリエンテーション
- イ 毎時間の教師の見取りと評価、生徒自身による自己評価(学習コミュニケーション)
- ウ 単元終了後に学習の到達状況について文章で振り返り、自己評価
- エ 生徒の自己評価の状況を踏まえた、励ましや具体的な助言(教科担任によるミニガイダンス)

④学習マップの例（国語）

時間	学習内容 (章・節)	学習課題（問題）	自己 評価	備考 (評価項 目・指導法 の工夫等)	家庭学習 (課題)	小テスト 結果	
1							
2							
7							
8							
単元テスト 得点		単元全体				小計	
単元学習を終えて		(単元の振り返り／単元学習の総括) ※教科毎に工夫 ①単元内容について ②学ぶ姿勢について				単元評定 関・話・書・読・ 言	

⑤評価シートの例（国語） ※記入例であり、実際の評定とは一致しない

評価項目	単1	単2	単3	単4	単5	単6	単7	観点別評価		
	視野広	新世界	心歩み	表現	古典	美文字	言葉			
①学習到達度	○	○	○	△○	○	○	○	関心・意欲・態度	A	
②活動評価	読・書・読	話	関・読		読・書言		関・言	話す・聞く能力	B	
③学ぶ姿勢	◎	○	◎	●	◎	○	◎	書く能力	B	
④提出物	○	●△	○	○	○	△	△	読む能力	A	
⑤小テスト	45/50	30/45	48/40	45/50	50/50	30/40	50/50	言語について知識・理解・技能	A	
⑥単元テスト	85	70	86	なし	90	なし	82	総合評定		
⑦単元評定	3	2	3	1	3	2	3	1学期末	11月末	学年
⑧学び直し				2				3	4	4
1学期春休み課題テスト			65	1学期定期テスト			80	* 5段階評定に総括 (1学期は5教科のみ)		
2学期夏休み課題テスト			80	2学期定期テスト			94			

⑥評価シートの見方

※生徒に「評価シート」を閲覧させる時間を「ガイダンス」や毎月曜日に設定。「学習マップ」の生徒の自己評価と、評価シートの結果を比較させながら、学習コミュニケーションを図り、学びの状況について振り返らせ、改善への意欲付けを図る。

評価項目		内 容
① 学習到達度		単元終了後に 学習マップ を 。生徒の“自己評価”や単元終了後の“学習の振り返り”、授業での学習状況を確認して評価。(達成 、 達成)。
② 活動評価		<u>授業中等の学びのよさを 点 に評価(教科 有のねらいに して)</u> (点の最 の文 を記入 。例. 関・思・表・知 等)
③ 学ぶ姿勢(自律的な学び)		自分の学びの状況を捉える(自己評価)、学習の状況、単元の振り返りから捉える () で評価。
定着度評価	④ 出	課題の 出状況を で評価。 ※ れ不 分() 出() 後で改善、 出()
	⑤小テスト	授業で実施。学習マップに <u>解数</u> を記入。 して 記・入力。※ 教科は必 実施。
	⑥単元テスト	単元終了後に実施。 して評価シート(PC)に入力。
評定	単元評定	単元の学習を総 的に判断して、 <u>3 1</u> の3段階で評定。(2 <u>達成</u>)
	学び し	1段階の生徒対 。改めて到達できれば2段階まで評定改善。 <u>(1 2)</u> ※ FTの時間、授業中、 課後、 み時間な 時間を工夫して実施。

(2) 学習支援システム(課題: BU、FT、PT、ガイダンスの有機的連携)

- ①家庭学習の習慣化をめざしたBU(ブラッシュアップ)タイム・ノートの実施 ※BU
- ア 「学習計画表」について、1学期分を冊子に綴じて(製本)生徒に配付する。
- イ 「家庭学習強調週間」を設定。期間中に模範となるBUノートや自学ノートを展示。
- ウ 「学習計画表」を記す専用黒板を使用。 例 (4)月(23)日(月)曜日の予定
- ※BU黒板

時間	準備・用意する	題・出
1 国語	点 ット	習 ワークP3
2 数学	コン ス・定規	
3 体	運動着	
4 理科	一理科 フイル	
	の具・レット	単語 習
語	ワーク <u>※いつもと じと書かない</u>	
連 ・その他		
2 日(月) 語単元テスト①		
27日() 数学単元テスト①		

②学習支援「制度」の充実

ア 学期の始まりの終 後（年3 ） 生徒と面 する「 日」を一 に設定し、意識付けを 図る。

イ 等の開 のない、終 後の毎週月曜日、担 に を特定した「学習 日」を 設定し、 全 で対応する。

ウ その他、それ れの担 と 生徒の に応じて、個 に ンス を する。

③学び しの機 「フ ニックスタタイム」の実施

ア 全 が単元2 上をめざす。そのために、単元学習が終了した時点で評定1の生徒を対 に、 できる範 で学び しの機 を設定する

イ FTは全 対 とし、基礎 （学び しの機 ）を 望しない生徒は、発展 を し 教科の理解をさらに深める学習を う。

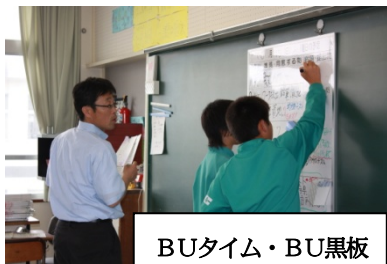
ウ の 望についてはFTのある前週に実施し、基本的に ⑤⑥に計画する。

エ 長期 み中は 望制とし、 みと年 みにまとめて数日間 う。

④学習 「ガイダンス」の実施

ア 全生徒を対 に、全 で自己の学びを振り返らせ、学習到達状況を捉えるとともに、指導・ 助言を通して自律的な学習態度（生活態度）を していく。

イ 数と時期は学期毎の年間3 度とし、 単な記 を し、フ イルに綴じて一括 をす る。さらに必要と められた時は、 時担任等が指導・助言にあたる。



BUタイム・BU黒板



BUノート



ガイダンス

(3) 授業改善（課題：捉えようとする“学びのよさ”の 点化と 有）

①教科 有の“学びのよさ”を捉えるために

ア 毎時間のねらいを明確にして授業に臨む。（単元指導計画と学習マップの作成）

イ ねらい達成のために指導 を工夫し、活動 面（個人の思考、 学習、思考の り い 等）を設定する。

ウ 思考・判断・表現にかかわる規準の準備。（期 したい生徒の反応）

エ 積極的に生徒の“学びのよさ”を捉え、伝え、 る。

オ ねらい達成の確 と授業の振り返り（自己評価）の を設定。

②学ぶ姿勢（自律的な学び）を育てるために

ア 本時のねらい達成の状況について自己評価させる。（課題：評価規準の準備）

イ 単元の振り返りをさせる。（文章で記 、各 点について自己評価の記入）

③教科担任による個 のミニガイダンス

ア 学習の状況、生徒の自己評価等について個 の支援と指導。

・ 研究の

平成21年・22年度、一実 研究助成 平成23年・24年度、特 研究指定助成

6. 研究の成果と今後の課題

仮説（1）について（生徒の自律的に学ぶ力は育っているか）

学習評価システムのイクルの中で自己評価させたり、授業の見取りの結果等を伝えたりすることで、自分の到達度や学びのよさを意識させることができた。

体育（びの例）

自分の目を てる 解決法を考える 状況を自ら ニタリン しながら実

飛鳥中 自の取り組みで、 た は学習面な で、有 に時間をもらえて、それを 用することができてとても まれていると じます。さらに有 活用をして学習マップな で自分の課題を見つけたりして、自分を高めていきたいです。（生徒の ①より）

学習支援システムが機能して、自分の学習状況を改善・努力しようとする生徒が えた。

こんな うに を助けてくれるシステムを通して、 生方にもすばらしい姿を見せられるように頑張っていきたいです。（生徒の ②より）

BUノートはただの計画 ではありません。自分の成長の 、たくさんの中学校生活が まったです。（生徒の ③より）

仮説（2）について（一人一人の学びの状況に応じた授業改善が図られたか）

単元指導計画やマップの作成を通して、習得させたい内容を さえた上で見通しを持って授業に臨むことができた。

授業中に活動 面を 組み、学びのよさを積極的に見取ろうとする意識が高まった。

教師間にも開かれたシステムにより教科を えた学び いと に、生徒の 面的な理解に った。

授業のねらいの一 の と評価規準の （学習マップのさらなる活用と工夫）

7. おわりに

中模 と の中で始まった研究だったが、 ニック教育 の一 研究助成の2年間で「使えるシステム」がほぼ完成した。さらに特 研究指定の2年間は、新 大学の後 生からの指導や助言をいただき、研究のフレームワークを作成し研究を進めてきた。

振り返ると全教科で学習マップを作成し、“事前に生徒に配付し見通しを持たせ、評価をPCに入力する”という、生徒はも ろん教師間にも開かれた大 しい環境のもと、なんとかやってこられたことが一 の成果かも知れない。これも が一つになり、 じ方向で取り組んだ結果で、そのような や生徒のみなさんをま 、誇りに思う。実際、生徒の に励まされたのも事実である。また、現 学校現 にはいろいろな問題が山積する中、学習と真 面から向かえる環境にあったことにも大いに したい。最後に本研究を くのみなさんの 力によって けてこられたことに したい。特に研究全 について今まで 身に指導をいただいた ニック の 、後 生に深く を し上 ます。